

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で（ヨシエル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇119：7、エペソ人6：5「真心から」、マタイ13：44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

「主の例祭」の預言的洞察

神、イスラエルの七つの「主の例祭」の中に、後世、イエス・キリストによって達成される贖いのわざの数々を前もって織り込まれた

「主の例祭」を考察することによって、主の再臨に向けての出来事の推移を読み取ることができ、一年のうちの「どの時節」に主が来られるかを知ることができる

春の三つの祭り、一過越、種を入れないパン、初穂― はすでに成就

→ヨシエル7

夏の祭り、一ペンテコステ― もすでに成就

→ヨシエル10

夏の祭りと秋の祭りとの間は、収穫を待つ長い期間

秋の三つの祭りは、未来に起こる出来事

→⑧ 「主の例祭」に織り込まれた神の人類救済のご計画

主の三大例祭	過越	七週（ペンテコステ）	仮庵
時節	春（3/4月） 第一（ニサン）の月の十四日	夏（5/6月） 第三（シバン）の月の六日	秋（9/10月） 第七（ティシュリ）の月の十五～二十二日
聖句	レビ記23：4-5 出エジプト記12：1-14	レビ記23：15-21 出エジプト記23：16 民数記28：26	レビ記23：33-34 申命記16：15

神の定められたとき

- (1) 過ぎ越しの祭り イエス・キリストの十字架での死、埋葬、甦り
- (2) ペンテコステの祭り 聖霊降臨、教会誕生
- (3) 仮庵の祭り イエス・キリストの再臨

イスラエルの「主の例祭」、秋の祭り

第五番目 ラッパの祭り（ヨム・テルアー）

第七の月の一日 レビ記23：23-25

‘テルアー’：「大きな音を立てる」の意、ショファルの「目覚めの吹き鳴らし」

⇒テーマは、霊的まどろみから「目ざめよ！」

「ショファル」（雄羊の角）に象徴される覚え

- 1. “アケダー”の出来事 →ヨシエル1
⇒神、「裁きの座」から「憐れみと赦しの座」へと移られた
- 2. 西暦1967年6月7日、アラブとの「六日戦争」終結時、ショファルが鳴らされ、イスラエルの本国帰還による、復興への新しいステップを象徴的に告知
- 3. メシヤの来臨とイスラエルの本国帰還時
⇒自由、解放のために鳴らされるショファル

聖書

預言的洞察

裁きの日、神、全諸国民を評価、裁きを下される

⇒開かれる三冊の本

1. 義人を記した書 ⇒生命に至る
2. 悪人を記した書 ⇒死に至る
3. その中間の者たちを記した書 ⇒十日間の悔い改めと善行をするチャンスが与えられる

第六番目 贖罪の日 (ヨム・キブル)

第七の月の十日 レビ記23：26-32

ユダヤ暦で一番重要、聖なる厳粛な日

ユダヤ人の伝統では、モーセに二度目の十戒が与えられた日

ホレブから下山したモーセ、神から幕屋建設の指示を受けた

可動式テント「幕屋」は、神の御臨在の場

悔い改めと和解の日

一年にこの日だけ、大祭司、神殿の至聖所に入り、贖罪の儀式を執り行う

いけにえの二頭のやぎ ⇨「メシヤ」のひな型

1. 「罪のためのいけにえ」
2. 「アザゼル」と呼ばれるやぎ：荒野に生きたまま放ち、民の咎^{とが}を負わせる

イスラエルに贖いを備えてくださったのは神ご自身 レビ記16章

神、ご自分の代理人としての大祭司による祭司制度を設立、定められた儀式を通して、赦しを提供

しかし、祭司制度には限界があり、究極的ないけにえが要求された

預言的洞察

†すべての民のためのキリストによる贖い

ユダヤ人、キリストをメシヤ(救い主)として受け入れ、罪、不信仰から解放される

†ヨベルの年に待ち望まれる贖いの完成

「ヨベルを告げ知らせる」とは、「ラッパを吹き鳴らす」の意

五十年目ごとに巡ってくる解放を告げるヨベルの年の始まりは、第七の月の十日「贖罪の日」

レビ記25：8-17、：23-55

⇨ヨベルの年に期待されるキリストの再臨

第七番目 仮庵の祭り (スコット)

第七の月の十五日～二十二日、八日間続く秋の収穫祭 レビ記23：33-34

神、約束の地で守るべき農耕祭として指示された

第七の月の祭りの締めくくり

- * 暗い雰囲気から一転、歓喜溢れる日がもたらされる
- * 「悔い改め」と「贖い」を経て「救いの喜び」に入る
- * 苦難の末、メシヤの王国到来の喜びを分かち合う
- * 千年支配の神の国を予兆
- * ただ「祭り」と呼ばれる収穫祭

収穫→①「世の終わり」 マタイ9：35-38

② キリストを受け入れた人々を象徴 ルカ10：1-2

聖書

歴史的背景

- ☆「仮庵」：可動式テント、「仮の住まい」の意
人のすべての必要の源は神、水、食料、宿、すべてにおいて、神に依存すべきことを象徴
- ☆ 民がカナンの地に入って以降、守られなかった　ネヘミヤ記8：17
- ☆ 荒野でのイスラエルの民の幕屋生活を守られた神の栄光“シェキナ”の「雲」
—神の御臨在の象徴—

意義

諸国民の祭り

メシヤの千年支配の王国でも祝われる
アブラハムへの約束の究極的な成就　創世記12：3
十四万四千人のユダヤ人が世界宣教に乗り出すのはこの時代　黙示録7:4-8

喜びの時節

喜ぶことが命じられている祭り

奉獻の祭り

ソロモン、最初の神殿を奉獻　列王記第一3章

光の祭り

祭りの初日の終わりに守られた神殿を照らす儀式
神の栄光“シェキナ”を象徴、神殿は「世の光」
⇒キリストは「**世の光**」　ヨハネ8：12

水注ぎの儀式

初日を除く毎日、六日間、シロアムの池から神殿に水運びの行進
いけにえをささげた後、最後に大祭司が祭壇の角の一つに水を注いだ
①農耕作のための雨乞い、
②雨のように聖霊が注がれる日、大地に神の霊が満ちるメシヤの時代を眺望
⇒水と聖霊との関連づけ
キリスト、「**だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる**」と、呼びかけ、招かれた　ヨハネ7：37-38

祭り「七日目」

四種類の植物の枝の揺り動かし、一霊的一致を象徴—
左手にかんきつ類、右手にその他の枝を持って
☆ 解放“ホシャナ”の祈りを唱えながら、祭壇の回りを七周
☆ 柳、^{ぎんばい}銀梅花、しゅろ、かんきつ類の四種類の枝
1. 柳は香りもなく、実もない
2. 銀梅花は香りがあるが実はない
3. なつめやしは香りはないが実を实らせる
4. かんきつ類は香りがあり、実を实らせる
⇒「かんきつ類」：異邦人、よそ者を象徴
☆ 初臨のキリストが地上にもたらされた「神の国」の完成を象徴

祭り「八日目」

人はこの地上では旅人、巡礼者　ヘブル人11：8-10、：13-16
*イスラエルの民、「仮の住まい」から「永遠の住まい」へ
*ユダヤ人、婚礼の祝い「小羊（巻き物）と結婚する儀式」を行なう
モーセ五書朗読が例年の行事

聖書

- * 同様に、キリストの群れの「携^{けいきよ}挙」を象徴
 - ⇒ 教会（主の群れ）、キリストの再臨のとき携挙によって、
「地上の住まい」から「天上の住まい」へと引き上げられる

メシヤの時代を眺望

- キリスト、ある年の仮庵の祭りの時期、花嫁（キリストを信じる者）のため、
「小羊の婚宴」のためにこの地上に戻ってこられる！ ⇒ 主の再臨 黙示録19：7
- ★ 艱難期を経て天に上げられた大群衆、仮庵の祭りを祝う描写 黙示録7：9-17
 - ★ 「**真実の幕屋**」 ヘブル人8：1-2、黙示録13：6、15：5
キリストを受け入れた者、天の聖所を経験
そこには、甦ったアブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ、モーセ、アロン、ダビデがいる

ルカの福音書9：27-36

→ ⑤ 預言の信憑性

キリストの変貌 マタイ17：1-8、マルコ9：2-8

- : 27 「…決して死を味わわない者たち…」 :
キリストのエルサレムでの旅立ちに言及
- : 28 「これらの教えがあつてから八日ほどして、イエスは…祈るために、山に登られた」 :
ピリポ・カイザリヤの近くのヘルモン山（海拔2,700m）
- : 30 「…ふたりの人がイエスと話し合っているではないか。それはモーセとエリヤ…」 :
モーセとエリヤ
- 1. 律法と預言者をそれぞれ代表
- 2. イスラエルの最初と最後を代表

→ ② 神の遠大な構想

- : 31 「…ご最期について…」 :
「出国」の意、「旅立ち」と訳されるべき

キリストの変貌で起こった四つのこと

1. キリストの御顔と衣が白く光り輝いた
2. モーセとエリヤが現れ、キリストと話した
3. モーセとエリヤ、キリストの「旅立ち」について語った
4. 父が雲の中から語られた → 35節

- : 33 「…私たちが三つの幕屋を造ります…」 :
ティシュリの月の十五日の仮庵の祭り日に近づいていた
⇒ 仮庵の祭り、来るべきメシヤの御国と密接な関連

- : 35 「すると雲の中から…」 :
雲は神のご臨在を象徴
「…彼の言うことを聞きなさい」 :
父はこのお言葉を、キリストの洗礼時に語られた
モーセよりも偉大な預言者、メシヤ預言に言及 申命記18：15
- : 36 「…彼らは沈黙を守り…自分たちの見たことをいっさい、だれにも話さなかつた」 :
三人の内弟子、死ぬ前に「神の国」の頭れを見た → 27節の成就
ペテロ、キリストの変貌の出来事をキリストの栄光だけでなく、再臨に関連づけ
ペテロ第二1：16-20

「未来の御国」

1. 栄光を帯びたキリスト、御国の支配者、全世界の王
2. 栄光のうちに現れたモーセ、死を通して贖われる者たちを象徴
3. 栄光のうちに現れたエリヤ、携挙を通して、死を経験せずに御国に移される者たちを象徴
4. ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、地上の身体で御国に入るイスラエルの残りの者たちを象徴